



「おおきな心と おおきな夢で あいのある網高を みんなで創っていこう！」

大網高等学校 創立記念日特集号

本校は、平成20年4月1日に旧山武農業高校と旧白里高校が統合し、大網高校として5学科7学級で開校しました。本年度で創立7周年を迎え1学年で、普通科2学級・生産技術科1学級・生物工学科1学級・食品工業科1学級、農業経済科1学級の5学科6学級を有する学校となりました。

「松風受けて 坂を駆け上がり 陽光射す 萌黄の丘に」と声高らかに校歌を歌って巣立った卒業生は、1588名に及びます。

1 創立記念日

《10月19日》

平成19年10月19日付けの千葉県報に大網高等学校の創立が掲載されたため、この日をもって創立記念日としました。

2 校章の由来

紙面の左上にあります本校の校章は、太くたくましく成長した幹に、大きく枝を広げた杉の形のシルエットをデザイン化したものです。杉は、いったん大地に根を下ろすと、しっかりと裾を広げながら天に向かってまっすぐに育ち、樹齢は数千年にも達します。

杉をモチーフにすることで、生命を尊び、自然を大切にすることができる生徒の成長を願うとともに、二つの杉を配置することによって二つの校訓（協調・創造）の調和、二つの前身校の統合を象徴しています。

この校章は、デザイナーにより提案された6点の図案から、生徒・職員による全校アンケートを経て選定されたものです。

3 校訓

「**協調**」互いに励まし助け合いながら協力し、調和をはかる。

人間は一人で生きてゆくことはできません。人と人とは支えあって生きているのですから、相違点や利害を譲り合い、何が正しいのかを見極め、自分の責任を自覚し、男女の平等にもとづいて他人の人格を尊重し、共通の目標に向かって歩みよることが大切です。このことは、生徒が主体的に社会の形成にかかわりその発展に寄与することにつながり、ひいては国際社会の平和と発展に寄与することにもつながります。相手を大事にすることは自分自身を大事にすることなのです。

「**創造**」深く探求して考え抜き、新しいものを創りはじめる。

人間は新しいものを創り出すことができます。その過程で、よりよいものをめざして努力し、工夫を積み重ねます。学業に励み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求め、豊かな心をはぐくむとともに、健やかな身体を作って行くわけです。このことは、新たな社会や文化を作ることにつながり、ひいてはすばらしい未来を作り上げることにつながります。

4 学校教育目標

豊かな心と教養を身に付け、生きがいのある明るく豊かな生活と、社会を築くことのできる人間を育てるために

- (1) 人や自然を慈しみ、お互いに励まし助け合う協調の心を持った人を育てる。
- (2) 社会の一員として規範意識を備え、物事に使命感をもって取り組む人を育てる。
- (3) 深く探求して考え抜き、困難を達成する行動力を持った人を育てる。

5 重点目標

生徒が「入学してよかった」、保護者が「入学させてよかった」地域の方々が「入学させたい学校」にする。

6 目指す生徒像

- 「しっかりと話が聞け、自分の考えを話せる生徒」(学習指導)
- 「あいさつができ、マナーやモラルが守れる生徒」(生徒指導)
- 「夢や希望を持ち、進路実現に向けがんばる生徒」(進路指導)

～お・お・あ・み～編

お おおきな心と
お おおきな夢で
あ あいあふれる網高を
み みんなで創っていこう

【意味するところ】

誰にでも親切に挨拶が飛び交う気持ちのよい学校づくりのために欠かせない心
大きな目標・夢を持ってこそ頑張ることができる
校訓の「協調」からきている。お互いに励まし合い協力するには愛が必要
校訓の「創造」から。自らいろいろなことを考えて何かに生かせる人になる。

7 校歌について、

若者の感性を反映し、地域に愛され、末永く歌い継がれる校歌を持ちたいと考え、音楽を通じて若者にエールを送り続けて来たシンガーソングライターの小島嵩弘氏に制作を依頼しました。小島氏はラジオ番組のディスクジョッキーとしても活躍しています。担当番組の一つ、FMラジオ局 bayfm の「I'm Alive」では、常に青少年の目線に立ち、番組宛に届けられる電子メールに真摯に答え続けて若年リスナーを惹きつけて来ました。

「萌黄の丘に」と名づけられたこの歌の歌詞は、幾度となく行われた在校生に対する取材のみならず、ラジオ番組を通じて卒業生、地域住民等から電子メールによって意見を聞きながら制作した労作です。

歌詞の一番は、正門坂下で生徒を見守り続けてきた「反省(みかえり)松」と台地上に広がるキャンパスを描写しています。その上で、若者が高らかな理想の下に研鑽を重ね、その願いが房総の大地はもとより九十九里浜を越えて世界に広がって行くようにとの期待がこめられています。

二番は、青年期特有の喜び、悲しみ、自信、挫折、期待、不安などに満ちた心情を表現しています。その上で、どのような困難にあたってても夢に向かって進んで欲しいという応援メッセージが込められています。

この校歌は、開校に先立つ平成20年2月23日に幕張新都心の bayfm 本社スタジオで、小島氏の指導の下、有志生徒職員の合唱がCDに収録され、3月に bayfm 及びNHKテレビによって放送・披露されました。

「あいさつ」をしっかりしよう

**明るく弾んだ「あいさつ」は誰が聞いても快い。
学校に活気がみなぎり、明るくなります。
「あいさつ」それは……**

- 1 この地球上で人間だけが、どんなときも交わすことができる。**
- 2 「あいさつ人間」に不幸なし。(西洋のことわざ)**
- 3 人格をおしはかる尺度とされる。
「あいつは、あいさつができるから立派だ!!」**
- 4 あいさつの
「あい」「挨拶」とは、相手の心を聞くことであり、
「さつ」「拶」とは、相手に近づくことである。**

いろいろなことが言われますが、自分を表現する一番簡単で短い言葉です。

大きな声で今からもう一度始めましょう。

「あいさつ」「ハイ」の返事も忘れないで!!

「当たり前」のことを一生懸命に、簡単なことは丁寧に、網高生頑張ろう!!